

令和5年度 学校関係者評価結果報告書

学校名

成田市立 橋賀台小学校

1 学校教育目標

自他ともに大切にし、未来をひらく力をもつ子どもの育成

学校関係者評価委員

2 本年度の重点化された具体的な目標

(1)基礎基本の習得。(2)わかった・できたが実感できる授業の実現。(3)読書に親しむ児童の育成。
 (4)生徒指導の充実。(5)道徳教育・人権教育の充実。(6)進んで働く児童の育成。
 (7)基礎的な体力・運動能力の向上。(8)保健指導・食育指導の充実。

学校運営協議会委員

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育目標	教育目標は明確であり、その達成に向けて校務分掌が適切に機能して、学校運営の責任体制が整備されている。 学校は「あいさつができる子」「よく考え学び合う子」「思いやりがあり助け合う子」「自分と友達の良さを認め合う子」「よく食べよく遊び、よく運動する子」「きまりをまもり進んで働く子」の育成に努力しているように感じる。 学校は楽しい。	・職員回答は、92%が肯定的な評価である。 ・保護者回答の内、前年度と同様に97%が肯定的な評価である。 ・児童回答の内、前年度と同様、94%が肯定的な評価である。	A	・児童が学校に行きたくなくなる理由は、「眠い、寒い、だるい、めんどくさい、家でゲームがしたい・・・」が多い。また、友達とのトラブルをあげる子もいる。学校で起こっていることは、その都度対応・指導しているが、家庭との連携が更に必要である。	A	A
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭との連携が大切であり、改善の方策に共感した。 ・学校内で出会った子供達の笑顔と元気なあいさつに好感が持てた。 ・友人同士のことについて先生に相談できる環境作りにも力を入れてほしい。 					
組織・運営	職員会議等が適切に機能・運営されている。 校内研修の実施体制が整備され、授業研究が継続的に実施されている。	・職員回答は、92%が肯定的な評価である。会議時間を超過しないことが求められている。 ・保護者回答の内、前年度比3ポイント高い95%が、学校組織・体制について肯定的な評価である。	A	・会議では、全職員が変更点や協議事項等を明確にして臨む。 ・職員会議や各種推進委員会・打ち合わせ等で、ICT活用を推し進める。 ・学校だより等を通して、学校の取組について家庭に発信していく。	A	A
	教職員は、子どもたちのためにまもって、よりよい学校を創ろうと努力しているように感じる。	・職員回答の全てが肯定的な評価である。 ・保護者回答の内、93%が学校の安全指導について肯定的な評価であるが、前期より後期の方が低い評価となった。使用禁止遊具が撤去されないことが主な要因である。	B	・危機管理マニュアルの見直しを定期的に行い、周知徹底する。 ・成田市のシェイクアウト訓練を活用する。 ・使用禁止遊具の撤去については、成田市教育委員会に働きかけを続ける。		
	危機管理体制を全職員が理解し、迅速・適切に行動できる準備が整っている。 学校は、安全指導を充実させ、事故防止に努めているように感じる。	・職員回答は、92%が肯定的な評価である。 ・保護者回答の内、前年度比4ポイント高い92%が肯定的な評価である。 ・児童回答では、前年度比3ポイント高い94%が職員の対応を肯定的に評価している。今年度は前期より後期の方がポイントが高く、指導が効果を上げています。 ・児童自身の回答では、今年度前期「あてはまらない」と回答したのは9.6%だったが、後期は7.6%に低下している。	B	・生徒指導情報の発信と共有に努め、アンケートなどからいじめや問題行動を早期発見できる仕組みを継続させる。 ・職員間の情報共有を密に行っているが、これを継続し、組織的な対応に生かす。 ・人権教育を充実させる。 ・教育相談月間を定期的に行い、情報共有を行い、日々の指導・支援に生かす。		
	学校いじめ防止基本方針を全職員が理解し、いじめの未然防止に向けた校内体制が機能している。 学校は、いじめのない学校をめざし、子どもたちの様子をよく観察したり情報を集めたりして、対応しているように感じる。 先生は、いじめやいじわるを絶対にゆるさない。 いじめや言葉の暴力など、他の人のいやがることはしていない。	・学校全体が落ち着いていて、柔らかく温かい雰囲気を感じられる。教室の掲示物等は、いじめや言葉の暴力の抑止に効果があると感じた。先生方の日々の積み重ねのおかげである。学校便り、学級便り等は学校の様子を保護者に伝えるのに大切なので、今後も更に充実を願う。 ・言葉一つにしても受ける側は多種多様な感じ方がある。100%達成やいじめを無くすことは難しいが、今後も様々な角度から視野を広げて児童に接し、より具体的な対応を考えて実行してほしい。 ・早期発見できるよう、子供達個々に目を配る。継続してくれることを望む。 ・割合の高さではなく、いじめは一人でも無くすという強い気持ちで対応することが大切である。 ・使用禁止遊具の撤去を急いでほしい。				

教育課程 学習指導	指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導の充実に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員回答では、100%が肯定的な評価である。 保護者回答のうち、前年度比2ポイント低い93%が肯定的な評価である。 児童回答の内、前年度比1ポイント低い97%が肯定的な評価(後期)であり、今年度は前期より後期の方が低い評価となっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校サポート教員・特別支援教育支援員等を各学級に配置し、取り出しや入り込みによる少人数指導を充実させる。 基礎基本の定着のために、反復学習を中心に着実にドリルタイムに取り組むとともに、ICT機器やソフトを使って個別最適な学習活動を実現する。 	A	A
	学校は、学力向上をめざし、わかりやすく授業を工夫しているように感じる。					
	先生は、授業中一人一人丁寧に教えてくれる。					
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育や人権教育に積極的に取り組み、思いやりのある子どもを育てている。 学校は、思いやりのある子供を育てるために、心の教育(道徳教育・人権教育など)を充実させているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員回答では、92%が肯定的な評価である。 保護者回答の内、前年度同様に93%が肯定的な評価である。 	A			
<ul style="list-style-type: none"> 食に関する教育を実施したり、体育科を中心に児童の運動の機会を増やしたりして、体力向上を図っている。 学校は、体力の向上をめざし、保健指導や運動の機会を増やしているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員回答では、100%が肯定的な評価である。 保護者回答の内、前年度比3ポイント高い96%が肯定的な評価である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「いきいきちばっ子元気アッププラン」に取り組む。 栄養教諭による食育授業の実施を継続する。 マラソン・縄跳び、高学年陸上練習など、体力向上策に」について、反省を生かして改善にも取り組み、活動を継続させる。 			
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> 特に道徳の教育が行き届いており、元気のよい挨拶や自主的なお手伝いへとつながっているようだ。 反復学習の取組に期待している。 指導について、教職員の回答が100%肯定的というのは教職員の日々の努力を感じる。でも、謙虚に子供達の表情をよく見て更にながらばってほしい。 					
生徒指導 教育相談	生徒指導、教育相談のバランスのとれた指導体制が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員回答では、指導体制、情報共有、指導内容共に100%が肯定的な評価である。 保護者回答の内、指導については前年度比2ポイント高い94%が、また教育相談については前年度比5ポイント高い94%が肯定的な評価である。 児童回答の内、前年度同様に96%が肯定的な評価である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 会議・打ち合わせで気になる児童の情報共有等を継続し、全職員で全校児童の指導に当たる体制を堅持する。 児童へ教育相談窓口の周知徹底を図る。 課題を抱えた児童や保護者のニーズに即した対応となるように、家庭や関係機関との連携を密にして、職員の関わり方をアップデートする。 	A	A
	情報の共有、指導の共通理解を図り、指導が統一されている。					
	児童一人一人の良さを認め、子どもの声を聴きながら伸ばす指導ができています。					
	学校は、一人一人の子供のよいところを認めて、のびやかな指導をしているように感じる。					
	学校は、児童の悩みを解決しようと、よく話を聞いたり、相談にのったりしているように感じる。					
橋賀台小学校には、こまったときに相談できる先生がいる。						
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の努力に感謝している。でも、子供達との信頼関係を築くには更に一人一人をよく見つめて一日数度子供達を認める声かけをお願いしたい。 困ったときに相談できる先生が増えてほしい。 					
特別支援	特別支援教育の取組を、全ての教育活動に生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員回答の内、平均75%が肯定的な評価である。一人一人への支援に余裕がないと感じていることが、前年度と比べて肯定的評価が下がっている要因である。 保護者回答のうち、前年度同様に92%が肯定的な評価である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育全体計画、個別の支援計画、指導計画、合理的配慮についての研修を充実させる。 個別対応等の要望があった場合、特別支援教育推進委員会を開催する。 「合理的配慮の申し出」について、保護者への啓蒙に努める。 合理的配慮の共通理解・見直しを適宜行う。 	A	A
	特別支援教育について研修を深めるとともに校内委員会を効率的に運営し、全職員が共通理解・共通行動ができています。					
	学校は、一人一人の能力を向上させるために、困っている子供一人一人に合わせた指導を心がけているように感じる。					
	学校は、保護者からの「合理的配慮に対する申し出」や要望をもとに、一人一人に合わせた対応を工夫しているように感じる。					
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> 児童、職員、関係者が支援級に対しての配慮、接し方が積極的である。 一人一人の支援に余裕がないと感じているが、難しい問題である。時間にゆとりを持つためにどうしたらよいか、考えたいと思う。 なかなか難しいとは思いますが、先生方が支援を受ける子供の良さを見つけながら、出会ったら一声かける等があると良いと思う(やっているととは思いますが)。 					

地域との協働	学校はPTAや地域団体等と連携し、保護者や地域住民の意見や要望を取り入れた学校運営を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員回答では、92%が肯定的な評価である。 ・保護者回答の内、情報発信・共有では前年度比2ポイント高い97%が、教育活動の工夫改善では前年度比1ポイント高い93%が、学校の魅力と信頼では前年度比5ポイント高い92%が肯定的な評価である。 ・児童回答の内、前年度比1ポイント高い96%が肯定的な評価である。地域に支えられている意識を持って学校生活を送っていることがうかがえる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうちDE道徳」の取組、道徳通信の発行を継続する。 ・個人情報の公表を忌避する保護者もいることから、HPIに載せる情報とメール配信アプリを使った情報伝達を使い分ける。 ・CSと協力し、地域コーディネーターの人材発掘を図る。 	A	A
	保護者や地域住民への情報提供を十分にを行い、本校教育活動への理解が深まっている。					
	学校は、保護者や地域の方々をともに工夫・改善しながら、よりよい教育活動をめざしているように感じる。					
	学校は、保護者への連絡を丁寧に行っているように感じる。					
	学校は、地域から魅力ある学校として信頼を得ていると思う。					
学校は、ボランティアの人たちにお世話になっている。						
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体の人間として、本年度もたくさんの支援をいただき大変感謝している。 ・地域との連携をもっと望む。 ・地域コーディネーターがいないので、その選出は今後も問題である。 ・コロナやインフルエンザ等があって、なかなか地域の人たちとの交流は難しいと思うが、現在学校に通う子供達は高齢者と接することができない。もともとは学校に協力的であった方々が、まだまだ居住しているので、学校からの発信だけでなく保護者の意見もうまく取り入れて、うまくふれあえるといえると思う。 					
人材育成(不祥事根絶)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての自覚と責任を持ち、校内外の研修会に意欲的に参加し、創意工夫ある教育活動を効果的・発展的に展開している。 ・教育公務員としての使命を強く自覚し、職場から絶対に不祥事をださないという意識で働いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員回答では、100%が肯定的な評価である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修での学びを職員間で共有し、自身の能力向上に資するシステムの構築や継続に努める。 ・当事者意識が持てる研修の充実を図り、不祥事根絶につなげる。 	A	A
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目だけではないが、職員の回答が100%と高評価、がんばっているんだなと敬意を表したい。更にご尽力をお願いしたい。 ・これまでのように意欲的に取り組んでほしい。 					

4 次期の重点目標と改善のための方策

<p>(1)基礎基本の習得。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリルタイムに継続的に取り組み、基礎基本の定着を図る。 ・少人数指導を充実させるために、特別支援教育推進委員会での協議を十分に行う。 ・音読や詩の暗唱に積極的に取り組む。 <p>(2)わかった・できたが実感できる授業の実現。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の効果的に活用し、個別最適な学習を実現させる。 ・指導と評価の一体化を推進し、指導力の改善に努める。 ・導入や発問の工夫を重ねる。 <p>(3)読書に親しむ児童の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書に着実に取り組む。 ・読み聞かせや並行読書を、学校図書館司書との連携を密にして実施する。 <p>(4)生徒指導の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が進んでできるように、委員会や職員からの働きかけを継続する。 ・教育相談や発達支持的生徒指導を充実させる。 ・校内のきまりや約束事を共通理解し、職員全員が同じ指導を行う。 <p>(5)道徳教育・人権教育の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おうちDE道徳の取組を継続・推進し、道徳通信を発行して家庭へもフィードバックを行う。 ・考え、議論する道徳科の授業を充実させる。 ・互いの良さや違いを認め合い、いじめや差別を許さない児童を育成する。 <p>(6)進んで働く児童の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番活動、係活動、委員会活動への取組を通して、学級集団への所属感を高める。 ・黙働清掃を推進し、達成感を持たせる。 ・栽培活動を充実させ、働く喜びを体感させる。 <p>(7)基礎的な体力・運動能力の向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、外遊び、チャレンジマラソン、縄跳び検定など体力向上の取組を行う。 ・縦割り班活動を通して、楽しみながら体力を向上させる。 ・準備運動を工夫し、正課体育の充実につなげる。 <p>(8)保健指導・食育指導の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいなどの基本的な生活習慣の定着を図る。 ・養護教諭、保護者と連携した保健指導を充実させる。 ・外部講師を招聘し、食育や健康に関する教育を充実させる。 						
---	--	--	--	--	--	--